|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ***24 hours Online Service* *www.PTSGI.com*** | | |
|  | | |
| **ptsgi_logo** | **ATS-logo** | **banner1** |

**Trial Translation**

**Language Pair:** Japanese to English

**Field:** Medical

**Instructions:**

1. Please put all of the translation after the original text.

2. Please rename the file with your name and the field. (i.e. Game - Blair)

**Original:**

テーマ：パーキンソン病の首下がりは変形性頚椎症のものと区別できるか？

目的：首下がりは、前方視制限から日常生活上の困難の一因になっている。パーキンソン病以外にも種々の原因によって生ずることが知られている。異なる原因による首下がりについて、その病態機序の異同について検討した。

対象と方法：パーキンソン病あるいはパーキンソン症候群10例、変形性頸椎症3例、筋萎縮性側索硬化症1例、原因が特定できない2例で何れも首下がり症状を呈したもの16例であった(平均年齢74.7歳、男性5名、女性11名)。頸部、体幹、下肢の多数筋の表面筋電図を記録し、姿勢、動作の変化に伴う筋活動を分析した。単純レントゲン、頸部CTあるいはMRI、理学療法の効果などを各症例で比較検討した。

結果：首下がり症例は全例、肉眼的に肩甲挙筋の膨大と筋電図上、座位あるいは立位で、首が下がった状態では、頸椎の屈筋である前頸筋、胸鎖乳突筋の持続的活動は見られず、頸部の伸展筋に持続的活動が見られ、随意的伸展（後屈）でさらに活動は増加し、何れの原因による首下がり症例の所見も同様で報告した。